

#### ○4番（山口裕子君）〔登壇〕

こんにちは。ただいま、議長の登壇の許可を得ましたので、4番山口裕子の一般質問を始めさせていただきます。

本日私は、1番目に、庁舎建て替えについて。2番目、これからの教育について。3番目、武雄市図書館について質問をさせていただきます。

まず最初に、庁舎建て替えということです。特別委員会でも決定しまして、12月2日の議会でも報告されました。それによって武雄の市民の方がですね、いろんな声も上がってますし、新聞とかですね、テレビで見た方がですね、どうなるととか、どんなふうになっていきよっと、みたいな形で、お声を聞きますので、まず最初に、その選定の場所も、まあ、一応決まっておりますし、経過ですね。これまでの検討経過の報告を、していただきたいなと思います。最初の質問にさせていただきます。

#### ○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

#### ○宮下つながる部長〔登壇〕

モニターをお願いします。

（モニター使用）建て替えに至る経緯を、若干整理をさせていただきます。平成23年3月11日、皆さん御存じの東日本の大震災が発生をいたしました。その、皆さん御記憶があられると思いますが、極めて、庁舎の重要性というところが、クローズアップされたところでございます。

半年後にですね、武雄市におきましては耐震診断の結果が出ました。平成23年の10月でございます。その結果の数値を見ますと、一番右下のほうに、耐震構造の指標0.69という数字がございしますが、いずれもですね、その数値を下回ってるということで、概略申しますと、震度5程度で倒壊のおそれがあるという、そういう結果が出ました。

また、新幹線の用地としまして、買収をされるという事実が、同時に起こりまして、平成25年の3月に、庁舎用地の一部が、買収される決定がされたわけでありまして。その結果、まちづくり棟がですね、北方のほうに移転をしまして、面積的には庁舎用地の2割が減少するということになりました。この2つの大きな理由がございまして、庁舎の検討をするということが必要になってきたわけでございます。

平成24年1月に、庁舎の、役所内での検討委員会を設置いたしました。年度が変わりまして、同年の7月に、特別委員会を議会において、設置をしていただきました。また、時期を同じくしまして、市民会議の設置をいたしたところでございます。その後、25年の2月に、庁舎の基礎調査ということで外部委託をしまして、地盤の関係等々、そういったものを全て、コンサルタントの専門的な知見をいただくということで、調査業務を終了いたしましたところでございます。

それから、今年の9月になりまして、本議会におきまして、武雄市の議会におきまして、新市の建設計画を変更議決をいただきました。財源的な裏打ちをするということでございます。その結果、議論の結果でございますが、市民会議の意見の取りまとめといたしましては、建て替えを行うべきという御協議をいただきました。また、25年の11月でございます。庁舎問題の特別委員会におきまして、移転建て替えを確認いただきますとともに、先ほど質問者がおっしゃいました移転先ですね、これについても、協議を進めてよろしいという御協議をいただきました。こういった経緯がございまして、これから移転建て替えについてですね、協議を進めていきたいという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

一応、庁舎の建て替えですね、新地に建て替えるということが決まりました。やはり市民の方がですね、今後、じゃあ、一応JA跡地とか、いろんな形で、市民の方も御存知なんですけど、じゃあ今後、どのような計画と、どのような、こうタイムスケジュールっていうか、あと何年ぐらいかかるのかしらとか、そういう声も上がっておりますので、そういうスケジュール的なことがですね、わかればその方向性ですね、わかりましたらお聞かせください。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

今後のスケジュールでございますが、まず、JAさん周辺という、用地の件につきましては、相手様がいらっしゃることでございますので、これからの協議をどの段階で進めるかと、ということになるかと思えます。その間、我々としましては、庁舎の内部で基本計画の策定という作業を進める必要がございます。これを取り急ぎ、作業を終わりたいと思っております。できうれば今年度中、来年の3月末までにですね、基本計画の構想案をまとめたいなというふうに考えております。

その後でございますが、議会での説明、それから市民会議での説明、パブリックコメント、こういう広く、皆さまに御議論をいただくようなステップを経まして、基本計画が了承されますと、基本設計に入っていくと、こういう段階になるかというふうに考えております。そういう作業をですね、積み上げていきますと、平成27年度中には、着工、早くて平成27年度には着工したいと、こういうふうなスケジュール感を、現在考えているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

これまでもですね、機会があつて、市長さんのこの新庁舎に対してのいろんな構想とかも、いろんなところでも、お話があつてると思いますが、やはり市民の方も、いろんな要望があつてですね、それをどこで伝えていけばいいかな、ということもありますので、きょうは少し何点かはですね、きょうの質問で言わせてもらおうとは思つてますが。

まず市長さんは、庁舎の機能とかですね、景観、まあ議員のほうからもいろんな要望がこれまで出ておりますが、大体、全体枠としてですよ、全体像というか、そういう形で、どういう、現時点でどんな機能を持って、どういう特徴のあるつていうか、そういう構想をお持ちか、お聞かせください。

#### ○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

#### ○樋渡市長〔登壇〕

最初にお断りしますが、これは執行部を代表しての意見ではなくて、あくまでも私の私見として、ぜひ受け止めてほしいんですけども。

まず、東日本大震災でいろんな被害に遭われた町、市を訪れたときに、これは上田議員と話した話なんですけれども、これ、1つの庁舎では、もうだめだよねという話。ですので、ある程度、ここの庁舎がだめになったにしても、こっちが使えるというので、1つの土地の中で、ある程度、こう、分散したほうがいいんじゃないかという、議論をした記憶があります。私はそれはもう、全くその通り、今でもその通りだなと思つていて。私は、本庁舎は、まだお相手のある話ですので確定的なことは言えませんが、できれば市民の利便性を考えた場合には、JAさんの土地に本庁舎を置いて、そこに1階を、市民課であるとか、できればそこで食事とかができれば、なお市民価値が増すだろうなというふうに思つております。

そして、今のここですよ。この施設については、例えば、武雄の商工会であつたりとか、武雄町の公民館であつたりとか、婦人会さんであつたりとか、老人会さんだつたりとか、そういう関連の、市の関連に深い、施設の団体に入つていただいて、そこに合わせて、市民がある程度自由に使える、会議室であつたりとか、ミーティングホールができればいいなと思つております。

蘭学館等については、これは議会で、これは、物すごくお金のかかる話でもありますし、全体の方向性を決める話でもありますので、これは次、改善された後の議会で、これは十分に御議論していただこうと思つています。

私個人は蘭学館はあつたほうがいいつていうふうに思つていますので、これは議会で広範な、御審議をお願いをしたいと思つています。ですので、それと、私の希望は、議場は1階のほうがいいと思つています。これもガラス張りに、ぜひしたいと思つています。ぜひしろつて言われてつていますので、ガラス張りにして、かつ1階にして、議会で使われてないときは、そこで講演があつたりとか、コンサートがあつたりとか、そういう多目的なね、場所にでき

ればいいなと思っていますので、それはぜひね、そういうふうに、こうしたいなと思っています。ですが、これは予算を伴う話でもありますので、これも議会で十分に、また御議論をしていただければ、ありがたいと思っています。

いずれにしても、1つの、今のJAのとこだけに、庁舎っていうふうにはなりません。少なくとも2つ、JAのところにおくっていうのと——あんまり言っちゃいけません。まあ、駅の周辺も含めてですね、周辺も含めて、そこに本庁舎がこうあって、もう1つは、その関連の商工会さんとかの、関連の施設については、こちらのほうにっていうふうに、多分、ゾーンになってくると。

それと、先ほど議員が、御指摘がありましたように、十分に武雄らしい景観には、配慮をしたいと思っていますので、木目等を生かしてね、木造じゃありません。木目等を生かして、中も外も、そういうふうな形になって、できれば、瓦についても生かしていきたいなと、このように考えております。いずれにしても、これから議論を、市民の皆さん達も、広く意見を賜ることになりますので、またいろんな意見をお聞かせ願えればありがたいと、かように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

すみません、この後の質問でですね、議場のことで、ちょっと質問を用意しておりましたけど。ちょっとその前にですね、こういう議員達は、市民の代表ですね、の声を届けるところだから、皆さん建て替えとなるといろんな声が出てですね、ぜひともということで、よりたくさんですね、意見を盛り込んで、執行部側で決まっていこうと思うので、こういう機会を使って、私が一応皆さんの声をですね、伝えていきたいなというふうに思っております。

その1つでですね、今、本当に問題になっていたっていうか、今まであまり手に付けられなかった、森林の再生事業っていうところで、今、武雄市と武雄杵島森林組合が一緒になって、水環境景観生物多様性、環境教育などの面で、重要な森林を環境林として選定し、スギ・ヒノキ林を対象に、間伐などの森林づくりを進めていくということですね、今、本当にうちの地区も、きのう、おとといぐらいにその説明会がありました。っていうことで、要するに、今、荒れ果ててる森林を整理していくっていうか、手入れしていく事業が始まっていますね。それと同時にですね、私のところには、ぜひともその庁舎っていうところを県内、今、県内の木材っていうか、そういうのも使うっていう推進もあっておりますので、こういう地域ですね、地域のもので、地域のものでできあがるっていうようなのに、盛り込んでほしいという、庁舎の中に盛り込んでほしいな、っていう声が届いて。ちょっと私もいろんな、そういう意見を聞いてですね、調べると、以前にNHKなんかでも放送された、里山資本主

義っていうですね、本の中にもたくさん書かれているんですが、今、そういう木材のですね、組み合わせによる、なんかコンクリートに代わる、その木造構造建築の移行が始まっているということでですね、もうこれも実証されて、火事とか、耐震とかですね、そういうのにも、十分に強化されているっていうことで。ヨーロッパなんかは主に、今どんどん進んでいるんですよ。日本でもあらゆるところに、そういう使い方はされてるんですが、その新しい集成材ですが、CLTっていうんですが、それをですね、ぜひとも県内の木材を利用して、武雄市の庁舎には、それが活用できないかっていう意見が上がっておりますので、それに対して、市長はどうお思いか、お尋ねいたします。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

実はCLTについては、もう私たち、実は研究をちょっと始めております。それで、例えば、スウェーデンとかノルウェーは、30階建ての高層ビルが木材っていうのも、もう珍しくなくなっています。ですので、単純な木1本だと、なかなかね、耐震性とかならないんですけども、さっきおっしゃったように集成材っていうのは、これ組み合わせで、強度とかあと軟度ですよ、っていうことをしていくというのは岡山県を中心に今、実は今、始まっています。これについては、我々としても、もう今すぐ着工っていうふうにはなりませんので、十分ここはね——しないという意味じゃないですよ。研究をちゃんとしていきたいと思っています。行政が研究って言ったときは、大体やらないっていうことですから、これはちゃんと研究をちゃんとしていきたい。

ただし、一番、ちょっと課題になってくるのは、防火対策、大丈夫だっていうふうには、こうきてるんですけども、一般の方々が見たときに、一番木で、怖いっていうのは、多分防火だと思うんですよ。それともう1つ問題が、コストの問題になってきます。今回、新たな市民負担はゼロでつくりたいと思っておりますので。まあ、35億円程度かかると思います。ですが、それは全部市民、新たな市民負担はゼロと、いうことにしたいと思っていますので。そのコストの問題と、主に私は耐震よりも防火ですよ、を踏まえながらしていきたい。いずれにしても、どういう構造になったであれですね、なったであれ、県産の木材は多用します。屋上も、ここ床も、周りも多用したいと思ってますので。議場は、ガラスから木材になるかもしれません。

**○議長（杉原豊喜君）**

4番山口議員

**○4番（山口裕子君）〔登壇〕**

ほんとにですね、今から進んでいって、これは、ヨーロッパのほうで今市長も言われたように、進んでいって、鉄筋コンクリートから木造構造建築へっていう形で、この火事とかに

も耐火のほうにもですね、強いっていうことで結果も出ていますし、実際ですね、2000年から、オーストリアとかロンドン、イタリアとかではですね、9階建てまでは普通にこの建築がされているそうなんです。オーストリアとか、石づくりが基本だった町並みが、木造へとシフトしているっていう形で。これは武雄市の庁舎にも、生かせるんじゃないかなっていうふうに思うし。森林が荒れ果てて、間伐材とかそういうのも、もし活用できるんだったら、そういうですね、集成材。この集成材が、このCLTっていうのが直角に張り合わせた板って意味で、クロス・ラミネーティッド・ティンバーっていうふうに言うんですね。だからなんか、こういう形で日本も全国に、高知駅の、駅のなんか表の飾りっていうか、そういうのも、その集成材でされてるとかですね、いろんところでそういうのができているので、ぜひともですね、ただなる研究ではだめでしたじゃなくって、取り組んでほしいなっていうふうに思いますが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

全くゼロということは、私の性格上あり得ません。ですので、やると思ったらやります。やりますがいろんなやり方がありますね。100%CLTでやるやり方と、あと、例えば車で、私はプリウスに乗ってますけれども、ガソリンと電気のハイブリットっていうのもあると思いますし。それと、例えば、駅の周辺のところについては、鉄筋コンクリートで。例えば、商工会とか婦人会とかに入っていたくものについては、例えば、木造になるっていうようなやり方も多分あると思いますので、現実可能的に、しかもコストも見ながらね、しっかりとしていきたいと思っております。

現に、先ほども申し上げたとおり、仮に鉄筋コンクリートになったとしても、僕は親戚がカナダにいますので、カナダの建造物っていうのは、僕がびっくりしたのは、ああいう議場の後ろのような木、あるいは杉原議長の後ろのような木を、実は外観にも多用しているんですね。これ僕、木造ですかって聞いたら、いやこれ張ってますと、かなり厚く張ってるんですね。それを、外にも中にも張っていて。それで、おっしゃってました。地元のその木材の、振興に寄与するっていうふうに言っていましたので。そういった、できることからしっかりとやっていこうと、いうふうに思っています。

しかも、木は非常に落ちつく効果もあると。武雄市図書館がそういうふうに、もう言われています。木を多用することによって落ちつくというふうに思っていますので、僕にはもっと木が必要かなと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

ほんとに、こう、ぬくもりがあってですよ、やっぱり落ちつくっていうのと、まあなんか、行政が今、ITとかいろんな形で進む方向性の中に、やっぱり全部全部が、循環型とかです。ね山資本主義とかじゃなくてもいいんですが、やっぱ、そういうのを忘れないできちんと、取り入れていくってところが、まあ、武雄市の魅力であるっていうふうに、なってほしいなっていうふうに思うんですね。だから、ぜひともその、建築物でそのCLTを使えなかったにしても、館内に入れば全てがそういう木材っていうか、カウンターとかテーブルとかですね。これは山内産じゃないですが、ほんとに武雄の木材ですとか、そういう形でアピールできるっていうのは、また一つの、なんていうかな、新しい注目される場所っていうか、みんながあこがれる場所っていうか、になるんじゃないかなってふうに思いますが、いかがですか。

**○議長(杉原豊喜君)**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

大賛成です。もし、これ私、ちょっと次が選挙でございますので、これ当選した後の話をしてもらえばと思うんですけども。

例えばですね、政策部は、山内の木を使いましたと。例えばつながる部は、朝日町の木を使いましたと、いうふうに物語があるようにやっぱりしていきたいなと、思ってるんですね。これってすごく実は大事なんですね。ですので市民の皆さんたちが、自分たちの地域あるいは自分たちの森から、少しでも出したという物語をね、ぜひつくっていきたいなと思っていますので。そういう意味で、木っていうのは、特に子どもたちですよ。子どもたちと行政との、ある意味、結節点に成りうると思っていますので、気を使ってまいりたいと、このように思っております。

**○議長(杉原豊喜君)**

4番山口裕子議員

**○4番(山口裕子君)〔登壇〕**

せっかくですね、この環境林の整備も始まったことですし、時間もある程度、そこに決めていくまでにあると思いますので、私もそういう意向でですね、進んでほしいなっていうふうに思います。

これはやっぱり、どこで言えば、そういうのが届くのかしらってそういう声、市民、私たちの声は届くのかしらということで、熱のある方がですね、ぜひともあなたも勉強してこちら辺を市長さんに言ってほしい、ってこういう形が少しでも実現するといいなっていうふうにおっしゃっていますので、ぜひともこの研究をしていただきたいなっていうふうに、思っております。

あともう一つ、先ほど言いました、議場の件です。私たち議会でも行政視察に行くと、ほ

とんど議会の議場を見させていただきます。違う、もうほんとにここは古くなっているんで、みんなあこがれのような、すてきな議場がですね、あって、わーわーっていう歓声ばかりなんですけど、新しくですね、那覇市役所ですね、新築になりました那覇市役所とか、3年前くらいだったら、堺市役所とかですね、円形議場になっておりました。私たち円形議場を見ても、そんなに特別ですね円形にしないといけないっていう、そのとき研修に行った仲間っていうか、同僚はですね、そういう、これにせんといかんという声は上がってなかったんですけど、そこに併設されてる、こう、ガラス張りですね、ちょっと私たちの、ちょっと昔から言わせれば、アバンセなんかにつけてある、親子席っていうふうに昔は言ってたんですけど、ガラス張りですね、小さい子どもを連れてのお母さんとかがちゃんと傍聴できたりとか、音楽とかコンサートがあるときには、おしゃべりしてても、そこでゆっくり見られるような傍聴席が用意されてたんですね。これは議場が今後ですね、新しくなって多様化して使われるにしても、この部屋は欲しいなっていうふうに、これはあるといいなっていうふうに思っております。だから、まあ今後ですね、そういう形、進めていかれるので、十分な検討されていかれると思いますが、市長の見解をお聞かせください。

**○議長(杉原豊喜君)**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

大賛成なんです。その中で、その議場といえども、もう議会だけっていうのはもう古いと思うんです。ですので、例えば使ってないときは、例えばそこでミニコンサートがあったりとか、いろんな講演があったりとかっていうふうに市民が、こう気軽に入ってこれて、かつ、やっぱり子どもさん連れでは、先ほど、私は、一般質問こそが最大の執行部に、これ皆さん、御覧になられていますので、執行部に対する、僕は、物言いの場だと思ってますし、これについて、我々もその見解を述べるという場ではね、僕は、一般質問が最高の場だと思ってますし、我々も議会の皆さんたちも、その責任は非常に重いものだと思っています。議会は言論の場だと思っておりますので。そういう意味で、山口議員。まあ山口議員さんって4人もいらっしゃるんですけど、議員さんがね、そういうふうに、こう、市民の声をここで届けるという部分については、非常に具体的に、どなたの議員とは違って具体的に届けてくださるという、いや、誰も特定の議員のこと言ってませんから。っていうことは非常に僕は大切だと、このように認識をしております。

**○議長(杉原豊喜君)**

4番山口裕子議員

**○4番(山口裕子君)〔登壇〕**

傍聴とかですね、できるのに、まあ時間があってもですね、何かしら、こう行きづらい場所みたいになってるんですね、聞けばですね。なんか無料で入れるととかですね、もう知ら



ない人は、そういう形だし。もう少し、気楽に行ける形をつくるっていうのにもですね、その、こう、ガラスの張ったところだと、おしゃべりもしながら、見ることできるしですね。ここにまっすぐ入ってしまうと、いろんな決まり事で制限されるし、なんか緊張して、なかなか、あんまり行く気にならないとかですね、あるので。そこら辺も、市民が参加しやすいっていう形をとればですね、そういうふうになっていくといいんじゃないかなっていうふうに思いますので。検討、今からですね、いろんなものが決まっていくと思いますので、1つの課題としてあげていただきたいなというふうに思います。

それでは、次の2番目にいきます。これからの教育についてです。これは主にですね、来年から、タブレットを使っただけの教育が始まるということで、私のところに寄せられた声です。でも、きょうはですね、もう1番目、2番目、3番目の方、皆さんがですね、この問題を上げておられます。それを聞いてですね、ああ、こういう問題だったんだなというふうに、とても理解することもできてます。そこに当てはまらなかった、私が預かってる意見をですね、今からお尋ねしたいと思います。これからの教育についてっていうことで。

私の年齢っていうのは、朝の古川議員の時もそうでしたが、こういうもので育ってない、教育を受けてないからですね、本当にいろんな抵抗とか、いろんな偏見とか、いろんなのがあって、逆に複雑に、こういう教育が始まるというのを捉えて、不安になったりとかですね、親の負担が大変じゃないっていう声は、おじいちゃん、おばあちゃんが心配したりとかですね。そういう声があるみたいです。ぜひともですね、今度始まるのはこういうのじゃないんだよとか、いろんなこう理解を深めるためにですね、質問が聞けたらいいなと思うんですが。

あと、まず午前中にもちょっと上がってましたが、一番親子で、予習っていう形でですね、学童放課後児童クラブっていう、先生が、指導員の先生がですね、放課後児童クラブは、もともと宿題をする所ではないんだけど、やっぱり親御さんがそこで、宿題を済ませてくれると助かるので、やっぱりそういう形が、児童クラブで宿題をするっていう形が、もう今、慣習のようになってますよね。そのときに、やっぱりタブレットで予習ってなると、やっぱり、この放課後児童クラブっていう役割が大きくなるんじゃないって。家に帰ってするっていうのは、今まででも、お母さんたち、読み聞かせ、本読むのなんかも、1回は聞いてあげてくださいねとか、保護者さんに言っても、時間がないもんねとか、家、仕事帰って、ごはんの用意してたら、もう子どもは眠くなってたとか、なかなか子どもと会話する暇がないとかっておっしゃるようになりますね。今の事態が、母親もしっかり仕事をして、疲れて帰ってくるし、その上、食事とか一緒にしてたら、そういう余裕がないのに、予習型になると、どうしたらいいんやろうかって。ましてや、そういう機械的なのに得意じゃないお母さんなんかは、またさらに不安を募らせてあるんですよね。そしたら、やっぱり、放課後児童クラブっていう所で、今まで宿題をしてたように、予習というか、そこでほかのこの先生がして下さるんじゃないかしらとか、私は想像的なことですが、そういうことしか、お答えできてない

んですが、こういうのを踏まえて、朝の答弁でもちょっとあつてたんですが、どういう役割を果たしていくのかって、どういう関係になっていくのかというところを、ちょっとお聞かせ願いたいなというふうに思います。

**○議長(杉原豊喜君)**

代田教育監

**○代田教育監〔登壇〕**

(モニター使用) 議員がおっしゃるようになりますね、いろいろ保護者の皆さまの不安等あるかと思います。1つ、御用意させていただいたのは、これから、保護者の皆さまへの説明会を、明日を手始めに、3月いっぱいまでにですね、来年度、どんなふうに使っていくのかというのは、丁寧に説明をさせていただきたいなというふうに思います。

冒頭、私のほうで10分くらい、反転授業とは、という話をさせていただきましたが、随分、10分くらいお話しをすると、誤解も解けてくる部分が大きいです。

これ、それぞれ、これにわざわざというわけではなくて、研究授業や保護者会があったときに、それに合わせて、11校の全小学校でやる予定ですので、まずはそういった形で、理解を仰いでいきたいというふうに考えています。

御質問にあった、放課後児童クラブとの役割なんですが、やはりどうしても家庭の中では、できない子がいたときは、放課後児童クラブや、土曜日学校の役割というものが、今よりも、今以上になってくるとは思います。

ですので、そこにですね、人的な配置をもっとできないかとかいうことは、いっぱい考えていかなきゃいけないと思うし、実際、教育委員会のほうでも、こういう反転授業をサポートするように頑張りたいというような、武雄市民からの声もありますので、そういう力をうまくつないでいってですね、放課後児童クラブが、もっと地域の支え、地域で学校をつくるというような形になっていけばいいかなというふうに考えています。以上です。

**○議長(杉原豊喜君)**

4番山口裕子議員

**○4番(山口裕子君)〔登壇〕**

反転授業ということで、聞いてみれば、親もですね、子どものことに関心を持って、親子の時間が増えたりとかですね、このタブレットを通してですね。そういうことは、とてもいいことじゃないかなってふうに思いますので。それを契機にですね、親子で、こういう予習とか、親子でこういうタブレットを使ってみるというのは、とてもいいことじゃないかなってふうに思います。

どうしても、それが放課後児童クラブの先生とかですね、もやはり知っておかないと、やっぱり子どもたちは必然的にですね、そこで宿題とか、いろんな先生に見てほしいなというふうに思うので、やっぱりそこら辺の強化も必要じゃないかというふうに思います。だか

ら、どういふのが始まるかわからないのに、その放課後児童の指導の先生も不安だしですね、ましてや、学校の先生も、武雄市にいくと、なんかいろいろあれだから、いや大変よねとかかっていう声もですね、ちらほら聞こえるので。やっぱりこういう説明とかですよ、みんな想像の中で、いろんなことを、こう決めたように言っているの、きちんとですね、やっぱり親御さんにも説明がこれからあるしですね、あって、理解をしてもらうっていうことが、やっぱり一番大切なのかなというふうに思います。

私たちが、本当にたったそれだけで、2歳とか1歳とか自分の孫だって、楽しくそういうタブレットとか使ってやっているのに、何かしらこの年代になると、なんか難しく考えてですね、どうやって使うのやろうとか、なんか不安になったりするの、やっぱり最初っからこういうのに触れてない生活をしているからかなというふうに、私は思ってます。

あと、またですね、これが勉強の中ですね、どれくらいを占めるのかしらって。もう全部が、この、全教科とか全部にこれが入っていくのかしらみたいなことも、私のほうに聞かれますが、いかがですか。

#### ○議長(杉原豊喜君)

代田教育監

#### ○代田教育監〔登壇〕

(モニター使用) 先ほど、武雄式反転教育ということで、大体どんな流れになるかという御説明をさせていただきましたが、ここでですね、タブレット端末自体を使う時間について、少し説明させていただきたいというふうに思います。

まず、あの緑色の、家庭で動画見てきて、宿題をやるわけですが、大体、動画とテストを合わせて10分から15分くらいです。動画自体は大体5分くらいです。で、あとは紙で書いて鉛筆で書いてノートを取ると、従来の形になりますが、動画で見て音声で聞く動きが、アニメーションがあるということがモチベーション、子どもたちの動機付けになるということで、それでも時間としては大体10分くらいです。じゃあ授業のほうで、どのくらい使うかということなんですが、これは11月21日に研究授業、見ていただいた方、わかると思いますが、授業の中でもごく一部です。みんなの意見を収集したいとか、テスト問題をやってみるという形なので、大体、授業の中でもですね、タブレット端末を使うのは、小学校であれば45分の間、5分と5分、この2回くらいを使えば、多いほうかなというふうに考えています。

だいたいこれが算数と理科で考えているんですが、現実問題として、ほかの教科、国語とか英語とか社会とかですね。そういった教科には、まだ反転授業の導入は予定ありませんので。大体、全体的にはですね、5分の1とか、教科でいうと5分の1とか、それ以下くらいの感じなので、これだけ、1日使うのが30分弱ですけども。それが毎日あるわけじゃなくて、これが2日にいっぺんくらいが、だいたい現実的な使用量かなと、というふうに考えています。以上です。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

はい、わかりました。まあ、いろいろですね、始まっていないからですね、いろんな声があがってくると思いますが。

あとですね、私達の時代もいつの間にか、そろばんっていうのがなくなりましたよね。そろばんを学校で習ってたんですが、いつの間にか、もうそれなくなったようにですね。今じゃあこういうタブレットとかが入ってくると、今お道具箱っていうのをですね、小学生に上がる時に用意するんですね、あるんですよ。今もあるそうです、お道具箱が。っていうのは、これ用意して名前を書いたりして、すごく用意するんだけど、あんまり使われないって。じゃあこういう、もうタブレットとかが入ってきたら、このお道具箱とかはもう要らないとか、もうなくなるのかしらっていう質問もあっておりますが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

なくなるということとはございません。画面での操作学習も大事ですし、実際に物を置き換えて活動的に学習することもありますので、まずなくなるということとはございません。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

そうですね、いろいろ意見があがるので、もうそのお道具箱セットを結構苦労して、名前を書いたりいろいろ、こう入学で準備するんだけど、そう使われてない、使っていないんですよ。だから、もういよいよこんなのが導入されると、もうこういう道具はないのかしらって言われる反面ですね、このタブレットでものを教えたりするよりは、そういうおはじきとか、そういう形で先生が教えるほうが入る子どももいるんじゃないのって。そのタブレットとかよりも、手で触ってする、っていうのは、じゃあ両方選択が、先生がそういうふうに、この子はこれで教えないといけないとか、タブレット、全部でタブレットで勉強しようとしても、やっぱそういう、こう差が、差っていうか、両方使っていくっていうか、そういう形の教育になるのかしらっていう質問があります。だから、入学したときに全員一斉、このタブレットを持ってするっていうのに、うちの子はどうしても苦手とか、どうしてもっていうときには、そう選択ができるのかなっていう意見ですね。そこら辺はどうお考えでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

基本的に全員、持って、例えば、30人いたら30人の子どもさんが、答えを出してくれることで、何君と何さんがちょっとわかってないな、ちゅうのは一目瞭然にわかるわけですので、そういう対応が、非常にこのパソコンならではのものだろうと思うんですね。ですから、途中の理解を深めるときには、そういう具体的なものを操作して、学習したがる子もいるかわかりません。それを今度は画面に置き換えたら、どうなるかっていう学習もできるかわかりません。

いずれにしても、子どもさんの状況、あるいはその学習内容によって使い分けていく。ただし、どの子どもさんにも、そういう持たせて対応していくということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

はい。というのはまあ、いいところをですね、引き出して、両方そういうふうにして教育をされていくっていう、答えのようですね。

それを持って、やはり自分の子ども、あまりそういう機器とかゲーム類とかそういうのにのめり込まさないで、子どもを育てたいなっていうお母さんたちの心配からするとですね、早くっていうか、早くもないかもしれませんが、1年生でそういう機器類を全員が持つようになると、なんか方向性として、今ですねちょうど韓国のこのスマートフォンの依存症とかによる病気とかですね、いろいろなものが、こうニュースになっているからか知りませんが、そういう傾向になるんじゃないかっていうふうな意見もあります。

だから、なんか伸び伸びと子どもを自然体験とか、いろんなこう仲間と汗を流して体験して、子どもを大きくしたいっていう親御さんからするとですね、早くこういう機器に触れさせると、なにかしらそっちの方向性に行かないのかなっていうですね、その機器類に対してのですね、不安をお持ちですが、そこら辺の教育を考えたときには、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

代田教育監

○代田教育監〔登壇〕

ただいま、ICTを使うと体験学習が少なくなるというような議論が、ちまたでは起こりがちなんですけれども、冒頭説明させていただいたようにですね、このICTを使って、より話し合いとか、教え込む授業から体験型に持っていきたいというのは、大きな趣旨です。ですので、従来、一方的に授業をやったところから、話し合いや、むしろ体験学習をしたいというのは強い願いであるということを、しっかりと保護者の皆さんや、皆さんにも御理解していただきたいなというふうに思います。

ちなみに最初に御質問あった、インターネットに関しては、今回配布する端末については、

家庭ではつながらない対応をしていきたいというふうに思います。やはり、つながってしまうと、どうしても見続けちゃうということもありますので、宿題をきっちりやって、これは、対応まだ100%決まっているわけではないんですが、例えば10時になったら、もうそのタブレット端末が使えないというような仕組みを含めて、インターネット中毒といわれるようなものにはならないように、しっかりと配慮をしていきたいと考えています。以上です。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

私も随分ですね、理解が深まったし、いろんな見えないところですね、不安を抱いたりとかですね、今後どうなるのだろうと思ってた親御さんたちも、随分、きょうの答弁でですね、見えてきたんじゃないかなというふうに思います。

また、学校別にですね、そうやって説明会もあるので、そのときにですね、またそういうコミュニケーションを親御さんとも、十分にとっていただきたいなというふうに思います。

やっぱりこう体験っていうか、子どもはですよ、わざわざ保育園のときからですね、そういう教育をしたいといって、遠くの保育園を選んだりとかですね、学校にあがったらそういう趣旨の学校を選びたいとかっていう親御さんもいらっしゃる中ですね、すべての子どもたちが義務教育としてですね、小学生に上がるので、そこら辺の不安が、皆さん、きょうの答弁を聞かれてですね、だいぶ軽減されたんじゃないかなというふうに思います。ありがとうございました。

次にいきます。最後です。武雄市図書館についてです。これは私もですね、大変、武雄市図書館は、新しくリニューアルオープンした図書館は、大変気に入っております。でも、もう本当にお客さんが多くてですね、駐車場の様子を見ては、きょうはまた後回しにしようとか思うぐらいに多くて、とても皆さんが気に入ってらっしゃって、話題になっている1つの図書館で、ああよかったなっていうふうに思います。市の財産がですね、私は眠っていた財産が本当にこれだけよみがえるっていうのを、目の当たりにしたような気がします。

夜もですね、9時とか、わざわざですね、あそこのほう回って、今イルミネーションができたそうですが、イルミネーションがないときも、あそこのなんか、優しい電気っていうかな、あの会館のですね、を眺めるのが好きで、わざわざあそこを回って、帰ったりしてたんですよ。本当に人気でよかったなと思う。そして、大人達もああいう居場所が本当にほしかったと思うし、どこの自治体も、こういうふうに市の財産をまたさらにですね、活用して生かしたいなという気持ちで武雄市を訪れてあると思うんですね。だから、こういう今の問題点を、またさらに解決して、進めてほしいなというところで、いろんな意見があるんです。

市長は、文化会館、大ホールのほうですね。もう耐久に耐えられないですね、なってるので、ちらほらですね、あそこを児童の文学っていうか、そういう形とかちらほら意見が出て

て、私のほうに意見を寄せられます。だから、子どもの居場所としてはですね、残念ながら、もう私は重々子どもたちのために、場所もいい場所を取ってほしいし、広げてほしいなと思って、意見も言っていて、本当にそれも聞いていただいたんですが、それ以上にお客さんが多くて、もう中のほうに入っていけない、行きづらいうような、子どもたちがですね、そのような環境にあるし、大人の人々の席が足りないで、やっぱりもう子どものほうまで押し寄せているしですね。もう、ちょっと環境にはとても、残念な環境です。これはでも嬉しいことなんですけどね、皆さん、大人の人も、みんなが、高校生にしても、みんながあそこに行ってみたいし、あそこで本を読みたいしって。そして今この話題の本も読んでみたいというのが、もうすごく集中したんだなと思うんです。で、また後の質問で、またいろいろ細かく要望したいと思うんですが、今の状況に対して、市長はどうお考えか、見解をお聞かせください。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

議員御指摘のように、今の図書館が、もう予想以上に多くの方々がお越しになって、特に週末は、子どもたちのスペースが前と比べると稼働面積からすると1.4倍広げたにもかかわらず、子どもたちがいなくても、大人の人たちに、あの小っちゃいいですが、こう占拠されているのを見ると、非常にこう嘆かわしい気がしています。それによって子どもたちが非常に来づらい環境になっていると思っています。ただこれは、やっぱりですね、やっぱりいいこともあると、反作用、副作用もあるってということだと思っていますので、先ほど議員からありましたように、少なくとも私は今のところ、文化会館の大ホール、大ホールですよ、大ホールがもう老朽化の極みにもう達しています。これは、吉川議員さんとか、山口昌宏議員さんの一般質問でもお答えいたしましたけれども、今のままで維持するほうが、莫大な市民価値の毀損にもなりかねませんので、あの場所に文化会館の大ホールは大ホールとして、違うところに建てるってことが前提で、今の大ホールの跡地を、できればキッズライブラリーにしたいと、児童図書館にしたいと思っています。そして合わせて、駐車場もセットで考えて、今の図書館がどちらかというと、大人向けの、そして今度文化会館の大ホールの跡地につくる図書館が子どもさん向け、あるいは親御さんと一緒に、ぜひ来てほしいという魅力的な図書館に、ぜひしていきたいと思っています。これについては非常に大きい話ですので、これもしっかり公約に盛り込みたいと思っています。これは議会の議決を伴う話でありますので、特に与党会派の皆さんたちとの政策合意をして、市民の皆さんたちにあわせて問うていきたいと、このように思っています。新たな形で、市民の皆さんたちに問うていくっていうものにしてまいりたいと、このように考えています。

いずれにしてもこれは、山口裕子議員さんとか、上野議員さんであるとか、女性の視点を

ね、十分に取り入れる必要があるだろうと思っていますので、しっかり意見は聞いてまいりたいと思っています。そうすることによって、今のいろんな問題とか課題が、少しでもね、軽減できるようにしていきたいと、このように思っています。まさか図書館がこんななるとは思っていませんでした。

それでやっぱり嘆かわしいのは、青陵中学校のこれ、ペーパーで出してるそうなんです。商業施設なので、1人では行かないでほしいと。これってどうです議員の皆さんたち。どう思います。(発言する者あり) ペーパーで、いや僕、ちょっとごめんなさい、実物はちょっと見たことないんですけれども、ある、上田議員さんという方から、こういうペーパーがきてるよっていうので、聞いていますので、これは間違いないと思っています。その理由も例えばですね、武雄中学校とかはどういってるかっていうと、直接学校から当該施設には行かないでほしいと。1回家に帰って行ってほしいと。寄り道じゃなくてね、1回家に帰ってきて、これはわかるんですよ。だけど商業施設だからといって、行くなっていうのは、それはね、僕はね、青陵中学校は横暴だと思いますよ。なんですか。(発言する者あり) これまず学校の問題だと思いますよ。あのね、佐賀県の教育委員会がこんなこと言うと思いませんもん、あの教育長の中で。ですので、これはもう勝手に判断していると、僕は思います。もし反論があったら青陵中学校の方は、ぜひね、また議論をさせてほしいと思います。僕は横暴だと思っています。その上でね、どうしても武雄中学校と同じように、その何ていうんですかね、道草はだめだっというのであれば、それは理屈としてはね、成り立ちますので、1回ね、ちゃんと考えてほしいと、いうように思っています。今のままの武雄青陵中学校のその姿勢については、私は看過しえせん。

**○議長（杉原豊喜君）**

4番山口裕子議員

**○4番（山口裕子君）〔登壇〕**

武雄青陵中学校のことは、私もきょう初めて聞きましたが、そのような強引な押さえつけをしなくてもですね、子どもたちはほんとに素直に、ああいうところで本を読んだり、ちょっとだけ大人の気分になったりとか、いろんな経験もできるし、私としてはなんでそういうふうに、校長先生が考えられるのか、よくわかりませんね。

でも、きょうあえてモニターで用意しなかったのは、私はこの図書館問題出たときに、いつもお勉強をさせてもらって、山内町に図書館がほしいって思ってたときに、見本にした、その伊万里図書館の、その子どもたちのスペースがですね、本当に今行ってもわかりますよ。グランドピアノが置いてあって、ぬいぐるみとか、本当に今の季節に合ったですね、飾りつけがしてあって、本当にこう親子で楽しめる空間をたくさんとってあるんですね。

それと、窯です。まあお金がかかっていますが、登り窯みたいな形で読み聞かせをする部屋とかですね。



時代もどんどん変わってきているから、武雄市のような図書館も一つの居場所としてですね、必要であろうけど、子育てをする環境と、お母さんたち子育てしながらなかなかですね、どこでも子どもを連れて行けなかったりして、とっても窮屈な思いして子育てしている人が多いんですね。自分もそういうのを感じたことがあったので、そういう意味から、武雄市図書館がそういうふう生まれ変われるときに、子どもたちの場所をとってほしいなというふうに言っていました。

それと三日月なんかもいい成果をあげて、子育て中のお母さんたちがどんどん引っ越してきたりして、人口が増えたりしてるんですが、子育てセンターのゆうゆうとかですね、三日月の図書館も何回も行きましたが、そこもティーンズルームっていうふうな部屋が図書館に用意してあって、高校生とか中学生とかが、その部屋を利用して図書に親しむ部屋ですね。本当にそういう子どもたちが堂々としていうか、こうゆっくりとできる環境がですね、ほしいなと思ってました。でも今、本当に大人も子どももそういうところがほしいんだというのは、はっきりしましたけど、ぜひとも今度の構想の中にですね、それを盛り込んでほしいなというふうに思います。

武雄市は市長が最初のころから、飲食なんかは子ども連れでなかなかできなかった、できないのでママズ・カフェみたいなのだと思うかとか、声もいろいろ上がっていましたし、あと総合子どもセンターっていうのも北方に備えてありますが、そういうところのあり方ですね。いろんなことを盛り込んで、異年齢の、児童センターというと18歳までですが、そのお兄ちゃんお姉ちゃんとかちっちゃい子どもとかが、異年齢でおれるような施設が、私はいんじゃないかというふうに思うんですね。だからその新しい施設はですね、そのためにちょっとだけ今は窮屈かもしれないけど、我慢して、もう少ししたら市長さんが考えてくださるから、いろんな意見を言って、次に盛り込めるようにしようねというふうに、子育て中のお母さんとかですね、今の図書館の問題を言うてくださる方には言ってるんですが、市長さんはその辺を踏まえて、どうお考えかお聞かせください。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

そのとおりだと思います。ですので、子どもたちの意見もね、ここはしっかり聞いていきたいと思っていますので。ちょっとまだ時間的に今すぐつくるか、今すぐ改修するような話でもありませんので、皆さんによく考えてほしいと思いますし、これは多くの皆さんたちが御覧になっていると思いますので、家庭の中でも、次の児童図書館こんなのがあったらいいよね、ということについてはね、家庭の中でぜひ議論をしてほしいなというふうに思っています。

ですので、図書館っていうのが、こんなに垣根が低いっていうか、ハードルが低いって

うのは、夢にも思ってなかったんですね。今まで図書館というのは、いわゆるマニアの人たちの、マニアのマニアによる、マニアのための図書館だったというところがあるんです。

ですので、非公式な数字ですけども、1回だけ図書カードつくって、何も言ってくださらないとか、あるいは、十数%の方しかね、例えば、月に1、2回しか使わないとか、これって、公共施設ではあってはならないことなんですよ、皆さんの税金で運営されてますので。そういう意味で、今まで図書館に縁遠かった層、僕はね、前の図書館で山口昌宏さんなんか見たことなかったですよ。ですが、今は、毎日のようにいて、本を買ったりとかね、本を借りたりとか、スターバックスでコーヒー買ったりとかされているのを見るとね、本当にやってよかったと思います。今のままの図書館だったら、あの人絶対行ってませんよ。ですので、そういう意味で言うと、僕は今まで図書館、あるいは本に縁遠かった層に、ちゃんと届いてるっていうことをすれば、ありがたいと思ってますし、さきの江原議員さんの質問でね、蘭学館のことをおっしゃいましたけど、私も結構、蘭学館長くいたことあるんですよ実は。だけど1回も江原議員を見たことがありません。いや、見たことがありません。だから、ちゃんときて、ものを言ってほしいんですね。見たこともないのに、そうやってね、こう上から目線で言うのは、まあ、ある意味、共産党のやり方だと思っておりますけれども。まあ、暗黒質問ですよ。ですので、そうはならなくて、実際に、やっぱりこう体験をして体感をして、いろんな御議論をしていただければありがたいと、このように思っております。

#### ○議長(杉原豊喜君)

4番山口裕子議員

#### ○4番(山口裕子君)〔登壇〕

この武雄市図書館にですね、結果的に、子育て中のお母さんたちが、まあ、大人の方がですね、多すぎてこういう結果になりました。けど、次にですね、市長さんはこういう考えを持ってらっしゃるから、ぜひとも、またいろんな意見をね、言ってくださいというふうに、私も思っておりますし、それにつないでいってほしいなというふうに思います。

また、赤ちゃんを連れた若い夫婦とかも、やっぱりこう子育て中であっても、ああいう雰囲気の中に入りたいたいんですね。だから、ほんと赤ちゃん連れのお母さんやお父さんですね、もう本当に多いし、本当によかったと思います。

だけど、子どもたちがですね、ちょっと窮屈な思いしてるっていうのと、子どもの雰囲気をつくってあげるのに、ちょっと足りなかったっていうのをですね、次の、そういう居場所づくりというところに、ぜひとも生かしていただきたいなというふうに思います。

だから、私は、図書館活動している人たちが、武雄市外から、たくさんの友達とかが来ましたが、大変こう、うらやましがってですね、こんな図書館がほしいっていう意見を言って、武雄市はうらやましい、いいねっていうふうに聞いております。さらにですね、よくなっていくように、今後とも努力をしていっていただきたいなというふうに思っております。

これで、私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長(杉原豊喜君)

以上で、4番山口裕子議員の質問を終了させていただきます。